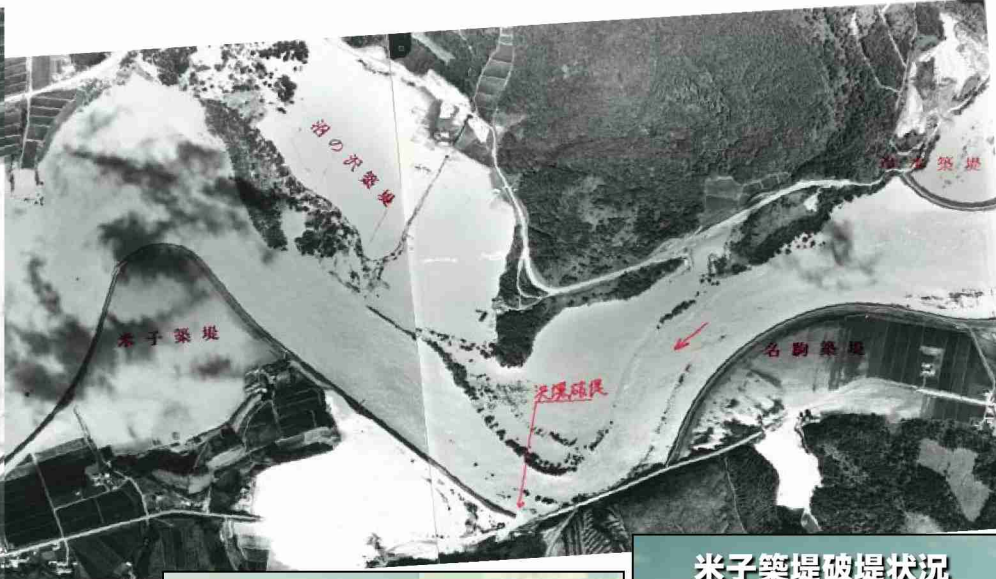
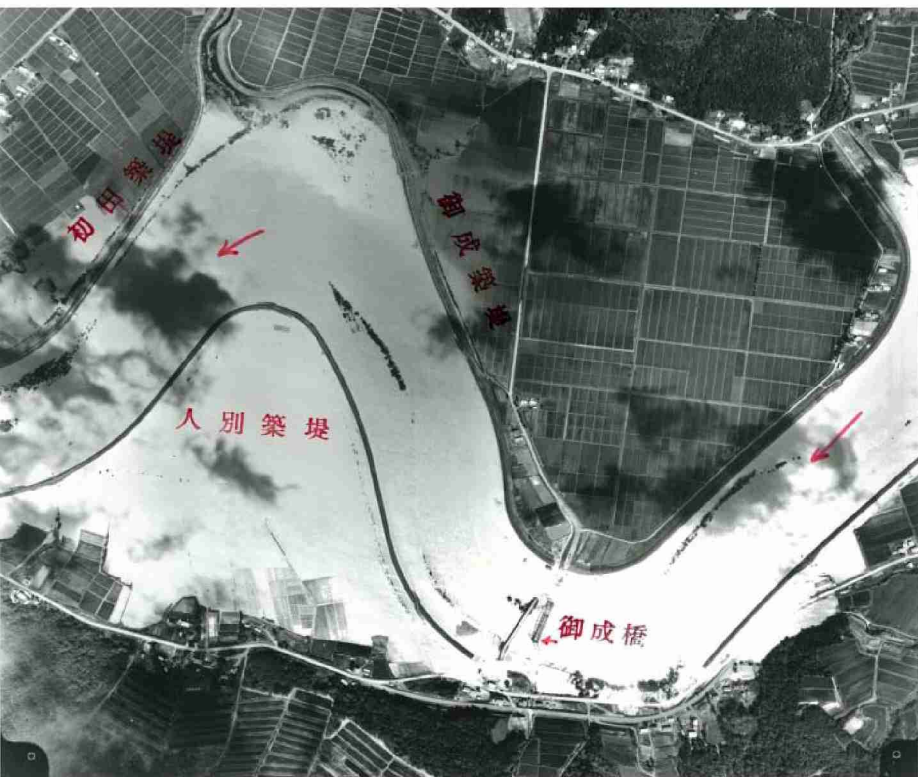


過去最大の流量だった昭和50年8月洪水

昭和50年の洪水は台風5号が温帯低気圧に変わり、8月19日から20日にかけて流域平均125mm程度の大雨となりました。その後22日から24日に台風6号の接近により追い打ちをかけるように発生し、降り始めからの総雨量が喜茂別で211mm、蘭越で238mmと大雨になり名駒水位流量観測所で観測史上最大となる1,493m³/sを観測しました。これにより被害家屋408戸、田畑の氾濫面積3,508haと大きな災害となりました。



三和築堤溢水状況

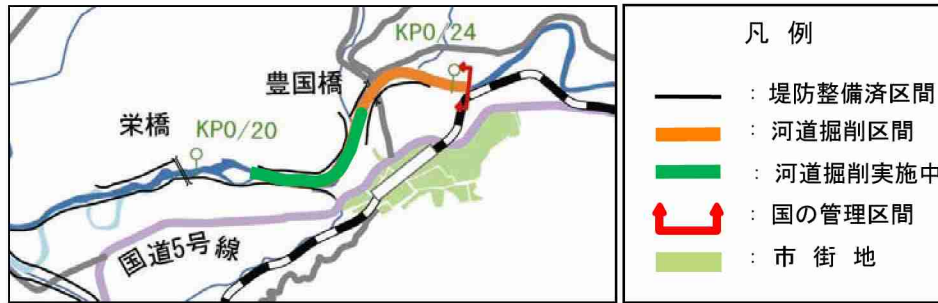


米子築堤破堤状況

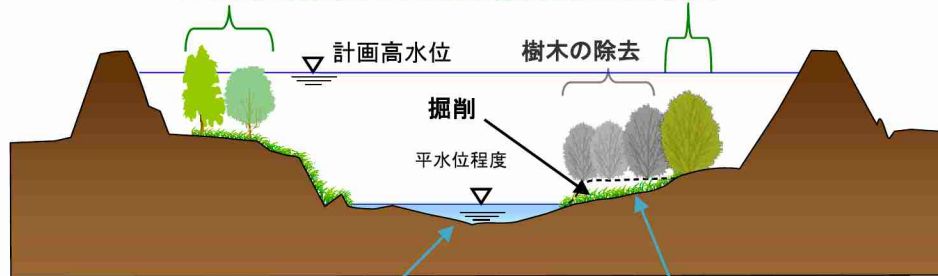
尻別川の洪水を安全に流すために・・・

昭和50年8月の洪水は、名駒水位流量観測所で観測史上最大となる1,493m³/sを観測しました。このときは上流で氾濫の被害がありましたが、もし上流の氾濫がなければ名駒での流量が約2,000 m³/sの洪水となっていました。平成23年9月の出水が同観測所で1,018m³/sを記録したので、その倍の規模の洪水だったこととなります。

小樽開発建設部では昭和50年8月と同じ規模の洪水を安全に流すため平成22年4月に尻別川河川整備計画を策定し、この計画にそって工事を進めています。過去から河川の改修が行われてきましたが、名駒から上流ではいまだに昭和50年規模の洪水を安全に流すことができないため、川の断面を広げる工事や樹木の伐採を行っています。



- ・ 樹木は洪水の安全な流下に支障とならない範囲で保全します。
- ・ かつて広く分布していた在来種の再生に努めます。



現在の河床の保全に努め、魚類や鳥類等の生息・生育・繁殖環境に配慮しながら進めています

水域から陸域に移行する湿地や草地を創出することで、生態系の横断方向への連続性の確保に努めています

大規模土砂災害を想定した訓練を行いました

1月24日に小樽開発建設部管内で大規模な土砂災害が発生したとの想定で、初動体制や対策工法を確認する訓練を行いました。



小樽開発建設部で行われた訓練の様子 →

樋門操作員会議を行いました

倶知安開発事務所では39箇所の樋門や横引きゲートを管理しています。洪水時には川からの水が街や田畑に流れ込まないように、樋門操作員が監視や操作をします。樋門操作員の努力で洪水から街や田畑が守られています。

1月29日に山村開発センターで平成26年度に向けて作業を確認する樋門操作員会議を行いました。



尻別川新聞では河川での取り組みや工事、イベント、地域の情報など様々な話題を取り上げていきます。

ご不明な点やご意見、尻別川に関する話題がありましたら倶知安開発事務所蘭越分庁舎までご連絡ください。

小樽開発建設部 倶知安開発事務所 蘭越分庁舎

(旧蘭越河川事業所)

0136-57-5331